

に にこにこ笑顔で

い いつもみんなで

つ 紡ぎ繋げる心で

に 日本一をめざすのだ

きりすてごめん

切捨御免! その評価はごもっとも?

＜「評価」を通して見えるもの②＞

当校の保護者の学校評価のアンケートは、昨年度からグループフォームでの入力によるデジタル化を図り、今年度から、記述では「お子さんの成長を感じられること」の入力をお願いしています。

後期の学校評価も、保護者の皆さんからいろいろコメントをいただきました。いただいたすべてのコメントについて、繰り返し繰り返し読ませていただきました。

すべては書ききれませんが、ほんの一部をいくつかピックアップしご紹介します。

- ・自分で考えて行動できるようになった。
- ・学校生活や部活を心から楽しんでいる。
- ・いろいろなことに挑戦しやり遂げる姿勢。
- ・部活動のお陰もあり、初対面の人にもきちんと挨拶ができるようになった。
- ・一人で決めることが増えた。 ・会話が穏やかになりました。
- ・思春期に入り精神的な不安定さを感じていますが、これも成長の過程だと捉えています。
- ・誰かのせいにすることなく逃げずに自分と向き合おうとする様子
- ・物事を少しずつ客観的に見られるようになってきた。
- ・自分の意見をいろいろな方法で伝える努力ができるようになってきた。
- ・周りの人たちに認めてもらうことが増え、以前よりも自己肯定感が高くなった。
- ・朝の読書の影響で読書習慣が見につき、毎日読書をしている。
- ・自分自身と周りの人たちを客観的に観察して、違いを認め、その上で自分の考えをもち、さらに伝えようとする努力をしている。
- ・体育祭や合唱祭の練習を、楽しそうに家でもやっていました。
- ・困難から逃げ出さなくなった。

- ・最近リンゴの皮をむいてくれました。「家庭科でやったので、むけるようになったよ。」と嬉しそうに話してくれました。
- ・仕事で疲れている時や具合の悪い時など、進んで家の手伝いをしてくれるようになった。
- ・大人が信用できない、というイメージが付いていたのですが、たくさんの先生方とのコミュニケーションのお陰で、だいぶ大人に心を開くようになりました。
- ・ニュースなどに対して、自分なりの考えをもつようになったと思います。

このように、多くの具体的な子どもたちの成長の姿に触れられ、我々教職員もたいへん励みになり勇気づけられた思いであります。本当にありがとうございます。

その中で次のような2つのご意見については、回答の必要があると判断し、この場を借りて回答いたします。

合唱祭の時に、生徒の「有志合唱」をやりたいと3年生から声が上がったのに、担当の先生の判断でやらないと即答され、思い出が一つ減ったこと、子どものやりたいという思いをきちんとした理由の説明もなく拒否されたことはどうだったのか。成長するチャンスだったのにと、とても残念でした。

昨年まで実施していた「有志合唱」を楽しみにしていた生徒が、特に3年生の中にいたことは承知しておりました。しかし、その一方で、過去には、練習や本番における生徒のマナーや態度面に問題ありと捉えていた生徒・保護者・教職員も少なからずおりました。今年度は、タイムテーブル等の進行面を含め、総合的な教育効果を考慮しとりやめることにしました。

決して、担当教諭のみの判断ではなく、それ以前に、職員会議等で協議し共通理解を図っての決定です。その理由や経緯について、結果的に生徒が納得いく形で丁寧に説明せずに、残念な思いを抱かせた生徒がいたことに関しましては、深くお詫び申し上げます。

そしてもう一つ。この自由記述に関して「お子さんの成長を感じられることがありましたら、ご記入をよろしく願いいたします」という、学校側の意図についてお尋ねがありました。

これまで私自身も、中堅教員から管理職にかけて、勤務した複数校で学校評価のとりまとめに長い期間関わってきました。その中で、保護者の皆さんから頂いたたくさんのコメントを読んで、多くのありがたい意見や要望もある一方で、暗澹たる気分になることも度々ありました。

自由記述とはいえ、建設的で前向きなコメントばかりではありません。辛辣で必要以上に手厳しい叱咤ならまだしも、感情的な表現や教職員や他の生徒・保護者への個人攻撃ととれる非難・中傷の類のものも見受けられました。無記名式とした場合、その内容はことさら過激になります。そう言われても仕方のない学校運営や教育活動だからだと言われればそれまでですが、先生方のモチベーションが高まる手立てには程遠く、建設的な改善に向かわないものと捉えていました。

誤解しないでください。耳の痛い意見には耳を傾けず、学校に批判的内容には耳を塞ぐ、というつもりは毛頭ありません。当然、皆様の意見や要望には謙虚に耳を傾ける姿勢を大切にしたいと思えます。ご意見や要望があれば、口頭であれ紙であれデジタルであれ、多くの声を寄せていただくのは大歓迎です。また、そういった互いのコミュニケーションこそ大切にしたいものです。

ただ、互いの考えや思いを伝えるには、最低限の節度ある相手へのリスペクトや温もりのある伝え方が前提だと思えるのです。それは、保護者と教職員間だけでなく、生徒同士、保護者同士、我々教職員の同僚同士、そして何よりも、我々教職員が生徒に対して、で最も重要なことです。

学習の成績をつけるのもそうですが、人が人を「評価」ということは本当に難しいものです。ただ、評価するということは、物事のいい悪いの白黒をつけることでも、1, 2, 3位の順番をつけることでもないはずで

あなたが頑張っている姿をしっかりと見ているよ、というサイン、頑張った姿を褒める表現活動、そして、ここを直したりすればもっとよくなるよ、というヒントであると思うのです。

「当校の保護者の皆さんには、いつも元気と勇気をたくさんいただいています。」というのが、私の新津二中の保護者に対する評価です。